
「幼なじみ」

ぴよこ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

「幼なじみ」

【Nコード】

N3881Z

【作者名】

ぴよこ

【あらすじ】

「幼なじみ」の紗衣^{さえ}と宥斗^{ゆうと}。ある夜をきっかけに、ふたりの関係は変化していく。このままずっと、傍にいられる…？

No.1 (前書き)

初投稿です。

ベッタベタの王道ストーリー。

行き当たりばったり。8割方話は書けていますが、最初のプロットと全く違う展開になったりしていて、ビックリですw

少しずつでも、なるべく期間を開けずに投稿していきたいと思います。12月中には完結させたいです。

よろしく願います。

No. 1

「…逃げてみるか？」

肩越しに見える天井の色と、
色素の薄い髪の色がやけに美しいコントラストを描く。

見慣れた彼の部屋、
…ベッドの上。

そう言って、
綺麗な顔が笑った。

私達は、お互い出会いの頃を覚えていない。
そんな事は、思い出せないくらいずっと昔の記憶なのだ。

産まれた時からいつも一緒。
私にも宥斗にも兄がいるが、年が離れているため、小さい頃は常に宥斗と行動を共にしていた。

私が母のお腹にいるころに新築で家を建て、先にこの家に住んでいたところ、2ヶ月あけて隣に越してきたのが宥斗達家族だった。

上の兄同士も同い年、下のお腹の赤ちゃんも同い年、しかも予定日まで同じ、とくれば、母親達はすぐに意気投合したようだ。

現に、今でも大の仲良しでしょちゅう父親たちを置いてショッピングだの、旅行だの、ふたりで出かけ回っている。

お互い両親が共働きなので、私が高校生になった頃、両家の夕食の準備を買って出た。

最初は「大変だろうから、やらなくていいよ」と諭されていたが、始めたことはなかなか辞められない性分なのを両親とにもよく分かっている、今では毎日の日課となっている。

母親の仕事が終わるのが早い日や、休みの日などはちゃんと作ってくれるし、品数は一緒なのだから量が多いだけで、食事の準備は全く苦じゃない。

料理は小さい頃から大好きだ。

それを夕飯時になると宥斗の家に届けに行く。

兄たちはとくに家を出て自活しているので、ふたりで夕飯を食べ

る。

宥斗が後片付けをしてくれて、後はテレビを見たり、宥斗の部屋でゲームをしたりして一緒に過ごす。

進路も決まった高校3年の冬、バイトも部活もしていない私たちは、お互い友達との予定がない限り、夜はふたりで過ごしていた。

いつもと同じ、夜のはずだった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3881z/>

「幼なじみ」

2011年12月13日02時59分発行